


<p>団体名</p>	<p>認定NPO法人コロンブスアカデミー</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>ひとり親家庭・困窮家庭を孤立させない「つなぐ・つなげる・つながる」子ども食堂</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体が目指すビジョンは、「みんなで子どもを育てる社会」である。保護者が子育てにおける悩みや苦勞を抱え込むのではなく、「社会で子どもを育てる」という意識が変わって、早めにSOSが出せるようにして、気軽に助けを求められるような気風を作っていきたい。地域の方たちや行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、特にひとり親家庭の親も子どもも、それぞれが相談できる相手を持ち、孤立しない社会をめざしたい。</p>		<p>子ども食堂開催の様子</p> 	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は、早期に相談を受け、早期に必要な支援につなげること、当団体としても必要な支援を行うことである。具体的には、以下のような取り組みを推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題を抱え、困っている状態にあるにも関わらず、社会とつながりを持たなくなっている家庭の保護者や子どもから相談を受ける場を設ける。</li> <li>2. 子ども食堂で本人と関わる中で、子ども自身が安心して過ごせる場を作り、必要な支援を見極める。</li> <li>3. 食育イベントを通じて、子ども食堂の存在を知っていただき、必要としている子どもが繋がってくるように周知をしていく。</li> </ol>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい人的資源：常勤スタッフが数名で、現場と事務・広報等の役割分担をしていく。子ども食堂に関わるスタッフは、相談を受けられるスキルを身につける。（傾聴、地域の資源を把握、関係機関との連絡調整等）</li> <li>●望ましい物的資源：今は場所を借りて、会場借り上げ料を負担しているが、いずれは法人の専有のスペースをもち、頻度も増やして、開所していきたい。</li> <li>●望ましい活動資金：自主事業での収入や寄付を増やし、安定した運営ができる財政基盤を作る。</li> <li>●望ましい情報：ホームページやSNSでの情報の掲載のスキルアップも重要だと考えており、さらに実際に活動の様子を見て聞いてもらう見学会や趣旨や活動内容がわかりやすい動画を作成する。</li> </ul>			
<p>■ 活動報告</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>●子ども食堂（会食、お弁当配布、フードパントリー） ひとり親家庭や生活困窮家庭の子ども達を対象に毎週金曜日に開催。参加する子ども達には役割を持てるよう調整し、準備から片付けまでをスタッフと一緒にすることで、自分の居場所となるよう関わった。そこから必要に応じて相談事業へつなげた。</p> <p>●食育イベント 地元の畑であるこまるソーシャルファームで「さつまいも掘り」「じゃがいも植え」「じゃがいも掘り」体験を行い、自分たちが口にしているものが、どのように育ち、収穫されているのかを知る良い機会となった。</p> <p>●相談事業 定期的に個別面談を実施し、悩みや困難な状況を一緒に考え、乗り越えていけるようサポート。また、必要に応じて保護者からの相談も受けた。</p> <p>●広報活動 インスタグラムの定期的な更新と、チラシの配布、活動報告の配布等で広報活動も行った。</p>		<p>●子ども食堂（会食・お弁当配布・フードパントリー）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①開催：毎週金曜日（48回開催） 延べ参加人数 974名</li> <li>②目標アウトカム：参加者の72%が、安心して通える自分の居場所となり、継続利用につながっている。</li> <li>③アンケートの結果：「あいさつやお礼を言う」60%（事前36%）、「将来の夢や目標がある」57%（事前34%）等、自己肯定感を高めている。</li> </ol> <p>●食育イベント（地元の畑でじゃがいもやさつまいもなどの収穫体験）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①3回実施（2022年11月5日、2023年2月25日、6月17日。延べ参加人数44名</li> <li>②目標アウトカム：参加者の81%が食の大切さを感じ、交流する楽しさを知った。</li> <li>③アンケートの結果：「今日のイベントに参加して、食事の大切さを知った」91%（事前52%）</li> </ol> <p>●相談支援（必要に応じ個別相談の実施） 延べ参加人数103名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要に応じた個別相談を実施し、次の段階へ進んだ子どもが61%となった。</li> </ol> <p>●広報活動（広報活動の充実を図る）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①インスタグラムを16回更新、地域へのチラシ配布を360か所行った。</li> <li>②登録者数30名から、61名となった。</li> </ol>		
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>●会食やお弁当配布、フードパントリーの実施方法をマニュアル化し、誰もが継続しやすい仕組みを作った。</p> <p>●子どもや保護者からの個別相談の中で、困難ケースについては学校や行政等の関係機関と「ケースカンファ」を実施。必要に応じて、法人内の子ども食堂以外の必要な資源につないだり、連携している専門機関につないだ。</p> <p>●食育イベントを通し、子ども達自身が農作物の収穫体験等を行うことによって、普段はあまり経験出来ない土で汚れる楽しさを共に経験して参加者同志交流がうまれた。また、そこから食への興味関心につながり、大切さを知るきっかけともなっている。</p> <p>●アンケート調査を実施するにあたり、参加者の変化やニーズを知ることができ、次の支援へつなげることが出来た。</p>		<p>当団体がめざしている「みんなで子どもを育てる社会」というビジョンを踏まえ、子ども食堂を毎週開催、食育イベント、個別相談も実施してきたが、以下の課題が明らかとなった。コロナ禍による影響で、困窮家庭が増えており、それに伴い、新時代の不登校が増えているという実態を連携している小学校との情報共有の場で把握した。加えて、子ども食堂の継続利用にはつながらなかったが、不登校児童生徒の低年齢化も進み、学校や家庭、学童以外の居場所を必要とする子どもが増えた。また、不登校の子を持つ親御さんが、自分の子育てが間違っているのではないかとご自身を責め、まわりに相談出来ず孤立してしまうケースが見られた。学校や地域、行政等と連携して、共に子どもの育ちを見守っていく仕組みの構築が急務だと感じている。</p> <p>子ども食堂は、そうしたケースの支援の入り口として十分機能していける場なので、必要な資源に「つなぐ・つなげる・つながる」を実践出来るよう、よりわかりやすい周知の方法を検討していく。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>子ども食堂の開催全48回、 延べ利用人数974名 個別相談利用人数 延べ103名</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>●毎週の子ども食堂の利用だけでなく、通常営業中のこまる食堂に在所し、スタッフへ困りごとの相談をしたり、おしゃべりしたり等する子どもが見られるようになった。</p> <p>●仕事がなく困っていた保護者が、個別相談を経て、就労先が決まり、親子共に安定していったケースがあった。</p>